

平成 28 年度 全学共通教育自己点検評価書

項 目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	
基準 5 教育内容及び方法 5－2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程）	○「広い視野」と「柔軟な思考」を養うために「異分野からの学び」を重視し、人文科学、社会科学、自然科学において同一分野内での重複履修を認めないように制限を設け、偏りのない科目選択を促した。 ○工学部、および応用生物科学部の 1、2 年生を対象とした「英語 1・2・3・4」の授業を、「話す」「聴く」「読む」「書く」の 4 つのスキルに振り分け、効率的に英語を学ぶカリキュラムにし、それに応じたシラバスに改善した。また授業担当教員の力が十分に発揮できる体制の準備を整えた。 ○直近 5 年間の授業時間帯別・分野別の開講授業数、定員充足率を調査し、授業編成の改善を図った。 ○教員の定年・転出等で開講数が大きく減少した科目について、新規科目の開講や他科目から複数の授業を移行することで、問題の解消に取り組んだ。 ○担当教員の平均年齢が高く、今後も定年で開講数が減少することが見込まれるため、新しい教員に授業を担当してもらうように取り組んでいくことが必要である。 ○大学外の企業・団体等からの協力を得て開講する授業科目（全学共通教育科目）に関する申し合わせを策定した。 ○学生主体の高年次学部混成形式のセミナーを 4 回試行的に実施した。 ○「教養講演会」を 3 回開催し、学生の自学自習の動機付けを行った。 ○教養ブックレット No.10「教養を身につけよう！」を刊行し、学生の自学自習の動機付けを行った。 ○図書館に「教養図書コーナー」を新たに設置し、学生の読書習慣を促した。	平成 28 年度以降の教養教育の基本方針（資料 1） 教養教育 NEWS（資料 2） 教養教育 NEWS（資料 2） 教養教育 NEWS（資料 2） 教養教育 NEWS（資料 2）	取り組みを示すポンチ絵（公表用 1 枚）
基準 6 学習成果 6－1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。	○授業評価結果より、人文・社会・自然・スポーツ・複合・英語・第二外国語のいずれの分野でも、5 段階評価で 4 以上を保持し、とくに複合と英語の伸び率が高く、学習成果の向上が認められる。	授業評価アンケート（資料 3）	

基準8 教育の内部質保証システム 8－1 教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備さ、機能していること。 8－2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。	○リフレクションペーパーを活用して、授業をわかりやすくするための工夫を共有するとともに、学生による授業評価の高い授業7つについて参観を行い（後期、12月5日～2月7日）、実施報告書を作成して、その取組を共有した。 ○日本語力・レポートの書き方を身につけさせる方法に関するFDを実施し（平成29年3月23日）、工学部、および応用生物科学部で行われている具体的な指導法・評価の仕方を共有した。	教養教育 NEWS（資料2） FDポスター，配付資料（資料4）	
--	--	---	--